

わ

が

街

わ

が

故

郷

株式会社ツバキ・ナカシマと 奈良県葛城市（旧新庄町）

葛城市は葛城山の麓に位置し、奈良県の西北部、北葛城郡の西南部にあり、古くは遥か白鳳の昔、万葉歌人柿本人麻呂の生誕地と伝えられています。

その中において、株式会社ツバキ・ナカシマは昭和9年1月創業以来約70年の歩みの中、鋼球の専門工場としてさまざまな分野で使用され、常に新たな価値を創造し、グループ各社を通じて世界各地のお客様に愛されています。

その葛城市(旧新庄町)についてご紹介します。

葛城市（旧新庄町）の紹介

葛城市は金剛生駒紀泉国定公園を含む美しい田園地帯が展開する閑静な市であり、平成16年10月1日に當麻町と新庄町が県下第一号として合併し、奈良県で11番目の市として誕生しました。

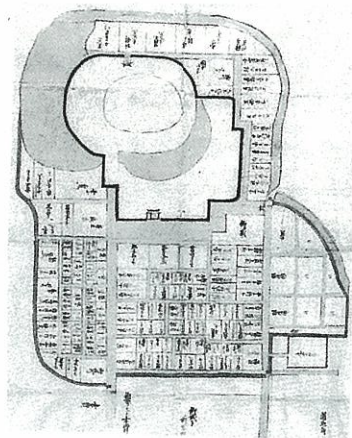


葛城市の位置

葛城市（旧新庄町）の沿革

新庄町周辺は、古代葛城の県の中心地であったと推測され、忍海（おしみ）の地名とともに記紀にしろされています。

「新庄」の名が古文書に出てくるのは関ヶ原合戦のあと、慶長5年、桑山修理亮一晴が紀州和歌山城よりお国替えになり、屋敷山に城を構え新庄の町割をしたことが「桑山氏系譜」に記されています。



新庄の町割

桑山氏入居以前は布施郷と称し、布施氏が葛城山中腹に城塞を築いていました。その氏寺は寺口の置恩寺であると伝えられています。

この布施氏は、大阪夏の陣で筒井氏の傘下として大阪城入りして豊臣家と運命をともにしま

した。その後、この地は郡山藩、榊羅藩あるいは天領となり、明治4年の廃藩置県後、大阪府、堺県、奈良県となり、その後、大正12年8月に新庄村は新庄町になり、15大字で構成される北葛城郡南端の大きな町となりました。さらに昭和31年5月に南葛城郡忍海村と合併、同年7月並びに昭和32年10月の御所町との境界変更後、現在に至っています。

葛城市（旧新庄町）の歴史

葛城山麓は大和のなかでも比較的古くから開けた地域でありました。金剛・葛城山地から発した大小の河川は下流に扇状地を作り、古代から人々の生活の場でありました。旧石器時代から現在に至るまで古い歴史のある街で、古墳時代の新庄屋敷山古墳（国史跡）、二塚古墳（国史跡）をはじめ町内いたるところ群集墳が集中しています。

（周辺紹介）

屋敷山古墳

全長135mの前方後円墳で、5世紀中頃築造されたと推定されています。古墳には長持型石棺が安置され、かつて関ヶ原合戦の桑山一晴はこの古墳を利用し城を築きました。

現在は屋敷山公園となり、毎年花火大会をはじめ各種行事が催され、また、近隣に文化施設、図書館などが建設され、市民の憩いの場となっています。



屋敷山公園

柿本神社（しほんじんじゃ）

宝亀元年創建、祭神は柿本人麻呂、社殿の左奥に人麻呂の墓と歌碑が建てられています。

春楊 かつらぎ山に 立つ雲の
立ちても居ても 妹をしそ思う
(万葉集巻11 2453)



人麻呂の墓

（文化紹介）

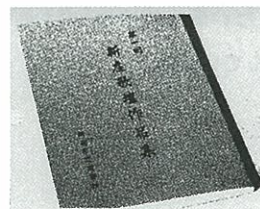
新庄歌壇

日本芸術院会員であり、名誉町民の歌人 故前川佐美雄氏の出身地であり、柿本人麻呂とともに古代・現代の二人の偉大な歌人を記念して、短歌の故郷「新庄」をめざし平成9年に設立されました。

いさぎよき ときもあるもの 葛城の
あを根に懸かる 雲晴れゆけば
(前川佐美雄)



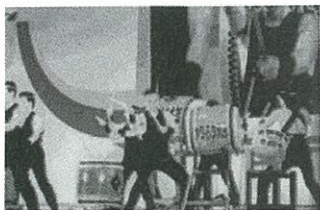
前川先生・人麻呂



新庄歌壇作品集

かつらぎ太鼓

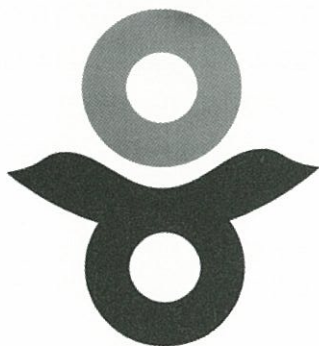
ふるさとへの愛情、明日に生きる情熱と人間的ふれあいのために作られました。「かつらぎ太鼓」は、偉大な祖先の業を受け継ぎ発展させるよう、新しい明日の世代に引継ぐことをモットーとしております。



かつらぎ太鼓

(合併後の姿)

新市章は新庄・當麻町を二つの円で表し、下の緑の部分は葛城山系の自然を守る願いを込め



葛城市市章

て、上の赤い円は菊や牡丹が咲くうるおいのあるやさしい街を表し、さらに大空に大きく手をかかげたようにも見える造形で、葛城市の未来の発展への願いを表しています。

「住んでみたい街・住みつづけたい街」の実現に取り組んでいます。

